「友松」の変遷 Ⅱ

2010.10.20　発行
シリーズ 2−2
「友松」30 号

「友松」３０号は、昭和２６年２月の発行で、総会の報告号ともいえる号である。会長の所感を読むと、総会は箱根三昧荘で開かれ、県下から多くの会員が出席して盛会であったことがうかがえる。しかし、師範学校が、総会直後の３月で閉幕することに、会長は「万感交々、さて吾等は如何に考え、何をすべきか」と、師範学校の終幕への思いを述べている。

（1）　第三〇號　友松会報　昭和26年2月15日

盛なりし總會

感想　名誉会長　銅直勇

所感　会長　小林梅茂　大正四年卒

感銘深い總會　東京學藝大學長　客員　木下一雄

所感　東京都杉並区荻窪二ノ六五　客員　和田八重造

述　神奈川　客員

総會に臨みて

名誉会長　近藤常次郎

名誉会長の記事に「学芸学部も開学以来早くも第二年にはいりました。私どもは全国にすぐれた特色ある学部として完成すべく全力をあげているのであります。（中略）遺憾ながら師範学校は専門学校としての歴史浅く、他の大学諸部門に比し概して甚だしい遜色があります。友松会を中心とする学部後援会のご尽力によってこの欠陥が充たされることを切にお願いし深く期待しているものであります」とあり、大学と友松会の連携の必要性を説いている。

右の記事の後半に「横浜国立大学学芸学部後援資金寄付」と題して県下学校からの寄付金額と学校名が記載されていろ。そして、累計額が 471,717 円になっている。

第三〇號　友松会報　昭和26年2月15日　（2）

東京友松會創立

創立に際して　新倉文郎

総會に臨みて　近藤常次郎

本年度卒業の各位を　歓迎

横浜国立大學學藝學部　後援資金寄附

東京友松会創立の記事によると、東京友松会は、昭和２５年の１１月４日に創立されている。記事の中に「東京に日本の力の中心があるとしたら、神奈川県友松会のあらゆる力は東京にのびるはずであり、その足場としても先駆としても東京友松会を利用して頂きたい」と記している。

本年度卒業の各位を歓迎では「師範卒業生としての最後を飾る諸君に対して吾が友松会として期待する」とあり、制度の改正による最後の卒業生にエールをおくっている。